

とやま市公民館だより

富山市教育委員会 富山市公民館連絡協議会 令和6年3月20日発行

富山市公民館研修会(後期)

令和5年11月16日(木) 八尾コミュニティセンター

《特別講演》 おわらの変遷



《事例発表》



市立三郷公民館



水橋昭和町公民館

〈特別講演〉「おわらの変遷」

富山県民謡越中八尾おわら保存会 資料編集部長 嘉藤 稔氏

おわら保存会で資料部のお世話をしております嘉藤です。令和2年3年とおわらは中止になりました。昨年は「小さなおわら」として開催、今年ようやく観光客用の駐車場も準備し曳山展示館ホールでのステージ踊りも行い、開催時間は少し短縮したもののコロナ禍前に近づいたおわら風の盆になりました。

三日間で約19万人の人出がありました。今日は全国からこれだけのお客さんが来るようになったおわらの変遷についてお話したいと思います。



現代のおわら町流し

＜明治以前のおわら＞

おわらの起源は元禄15年(1702年)と言われています。新聞記事に初めておわらのことが載ったのは、明治20年9月の中越新聞です。

四日、五日の両日は豊年盆と称し三味、太鼓、胡弓等様々の打囃(うちはや)しをなし、朝は九時頃より暁天(ぎょうてん=夜明け)に至るまで喧鬧(けんとう)耳を聳(つぶ)さんばかりに市中を騒ぎ廻ると、恰(あたか)も発狂人に異ならず、是れは古来の習慣なれども、方今(まさいま)開明の世に、如斯(かくのごとく)野蛮醜風の猶(なお)存するは嫌はしきことにして、浩(かか)る風習は明年より廃止したきものなり(抜粋)

このように、新聞記者の感想は散々なものでした。

このような状態は明治40年過ぎまで続きますが、明治44年の富山日報によりやうく良い記事が見られます。

数年前から八尾俳壇が歌詞の新作を行い、今や小原歌は県下は勿論、遠く信州、武州の方まで流行している。

其歌曲に至っては抑揚が極めて至難で、八尾人士の歌ふものと他地方の人の歌ふものとは明らかに違う。深夜に八尾の歌先生が唄うと、思わず夜具を蹴って戸外に飛び出さざるを得ないそうである。(抜粋)

＜世に出るおわら＞

大正に入るとおわらが大大的に世の中に出始めます。

1 レコードへの吹き込み(大正2年)

これまで、八尾に來ないと聴けなかったおわらが、蓄音機さえあれば聴けるようになりました。



レコーディングをした岩本小吉連中

2 共進会への参加

大正2年の富直鉄道(富山-直江津間)開通、伏木港港湾修築工事竣工を記念して開催された共進会会場の演芸館で、日本舞踊家が振り付けたおわらが披露されましたが、八尾に相応しくないもの(海女の踊り)だったので、八尾の人々でその踊りを改作しました。これが今の「旧踊り」です。

3 全国民謡大会への出場

民謡の祖と言われる後藤桃水氏からの誘いで大正10年の全国民謡大会に参加したのを機に、全国におわらの名が知れ渡りました。

4 興行のおわら

「萬龍一座」が東京浅草の常盤座で旗揚げ、客を引き付ける演技や演出に工夫を凝らし、全国をまわりました。一座の歌手のレコードの売り上げも八尾おわらを上回りました。

このように明治40年ごろから大正時代にかけておわらは大きく変わりました。



川崎 順二

大正14年、後に初代おわら保存会会長を務めることになる川崎順二氏が、東町、現在のおわら資料館の場所に川崎医院を開業し、おわらにのめり込み、おわらの発展に尽くしました。

＜昭和のおわら＞

川崎順二氏は、昭和3年に小杉放庵におわらの作詞を、同4年に若柳吉三郎に踊りの振付を依頼し、日本橋三越での富山県特産陳列会において、この新しいおわらを披露しました。この成功を受け、同年8月には越中おわら保存会が発会しました。昭和8年にはおわら體育民謡が創作され、特に県内工場従業員に奨励、普及しました。

それ以降も、文人墨客を呼ぶなど、様々な仕掛けをして、ますますおわらが盛んになっていき、今につながる事となるのです。(要旨)

越中八尾観光協会
おわら風の盆



事例発表「公民館運営の現状と課題」

市立三郷公民館 館長 土田 稔

<地区の概要>

東は白岩川、西は常願寺川、北はあいの風とやま鉄道、南は富山地方鉄道本線に囲まれ、そのほぼ中央を東西に国道8号線が走っており、地区の各所から雄大な立山連峰を望むことができます。以前は米作中心の農村地帯でしたが、現在は2カ所の工業団地をはじめとした工業地帯の占める割合が高まっています。令和5年9月末の人口は3,801人、世帯数は1,714世帯で、町内会数は23町内、自治公民館は17館あります。

<公民館の概要>

三郷公民館は、平成2年3月に建設され、鉄筋2階建です。大ホール・小ホール・和室・料理実習室を備えています。建物南壁の外装にはニホンカモシカとライチョウ、立山杉、立山連峰のレリーフが設置されており、地区の各所で雄大な立山連峰を一望できる三郷ならではの特色を表しています。



富山の象徴を
かたどったレリーフ

<公民館の活動>

現在、10サークルが活動しており、活動内容も手芸、民謡、書道や体操、社交ダンスと幅広い分野に及んでいます。また、公民館事業では、制作・体験講座を中心に、企業等施設見学、コンサート等を開催しています。特に、毎年10月に開催している三郷ふるさとまつり（文化展・地域健康展）は、手芸、書道サークルや体験講座で制作した作品等、日頃の活動の成果を地域の方々にみていただく良い機会になっています。



クリスマスコンサート

公民館の利用件数、利用人数共に、新型コロナウイルスの影響を最も受けた令和2年度の落ち込みから徐々に回復しつつあります。しかし、公民館行事に参加する顔ぶれが固定する傾向にあることは変わりません。日頃からアンテナを高くして、公民館活動を見直し、様々な年代の、より多くの方に参加していただける、活気ある公民館活動を、これからも実施していきたいと思っています。（要旨）

<今後の課題>

水橋西部地区

水橋昭和町公民館 館長 飯野 誠

<地区の概要>

当地区は、世帯数は74世帯で、東は白岩川、西は常願寺川、北は富山湾に面しています。

公民館はこちんまりとしており、建築から約29年が経過しています。水橋フィッシャリーナができてからは、白岩川にたくさん係留されていた船舶が減り、景観が改善されました。



公民館外観

<町内会・公民館の活動>

町内会では、新年会、納涼祭、年3回の除草、春季・秋季の例大祭など、児童会では、花火大会やクリスマス会が行われています。納涼祭と花火大会は、町内会と児童会がコラボして実施しています。また、2つのサークルが活動し、手芸、折り紙、運動、パークゴルフ、敬老会の世話、カラオケ大会などを行っています。



サークル活動(ストレッチ教室)

<地域の課題>

①高齢化

当地区の高齢化率は市の平均よりも少し高い33.8%です。10年、20年後を考えると、高齢化により町内会や公民館の活動が存続できるか不安です。

②空き家、空き地

現在、空き地の管理者が亡くなって近親者も県内に不在で、雑草が手を付けられない状況があります。持ち主に連絡が取れないため、行政にも力を借りて、町内会による除草を実施したいと考えています。

③一人暮らしの高齢者の支援

地域の中で孤立しないため、サークル活動や町内の行事の際に声をかけ、公民館に来てもらうようにしています。

④公民館と町内の結びつき

公民館をいかに活用して、いかに賑やかな町内にするか、町内会全体で考える必要があると思います。

⑤子育て世代との交流

児童会単独で行っていた行事を町内会と一緒に行うようになりました。今後も子育て世代との交流を積極的に考えています。

<最後に>

生きがいや、人とのつながりを考えながら、公民館が町内の人が集い・学び・結びあう場として、今まで以上に連帯感を深め、課題の解決に取り組み、推進していくことを目標にしていきたいと思っています。（要旨）

わが町新築公民館紹介

広田地区

鍋田公民館

館長 高岡 信夫

令和2年度の総会で、駐車場がなく老朽化した公民館の新設が承認されました。幸い土地は町内の地権者の方々より300坪の提供を受け、建物は他町内の公民館見学や町内の皆さんの意見を参考にし、建築計画に3年の歳月をかけ、令和5年4月に着工して11月に竣工式を迎えました。

会議室、集会場など多様な用途に対応できる施設と広い敷地を活かした行事を企画し、地域の交流の場として活用していきます。



(建物面積 203㎡)

新庄北地区

上飯野新町公民館

館長 青島 研一

平成19年3月の能登沖地震を契機に、旧公民館の耐震性が問題となりました。

また、築50年が過ぎ、世帯数も当初の約200軒から現在は830軒を超えて手狭になったため、新築が計画されました。10年近くの年月を要しましたが、昨年11月に完成しました。

今後も、新公民館を拠点として、町内活動の活性化を図っていきます。



(建物面積 261㎡)

富山市の文化財施策について

富山市教育委員会 生涯学習課長 加藤 孝一

富山市内には、「旧森家住宅」や「越中の稚児舞」などの国指定文化財が28件、「八尾町祭礼曳山」や「猪谷関跡」などの県指定文化財が49件、「千歳御門」や「竹島家住宅」などの市指定文化財が149件、「富山市郷土博物館（富山城）」や「北陸銀行本店」などの国登録文化財が38件、新たに創設された県登録文化財「お鍛様」1件、あわせて265件の文化財が所在しています。



(国重文) 旧森家住宅

本市では、総合計画において、多くの市民が本市への愛着や誇りを抱き、このまちをより良くしたいという気持ち、すなわちシビックプライドの醸成を施策の一つに掲げており、このシビックプライドの醸成のためには、自らが暮らす地域の歴史や伝統を学ぶことが大切であり、これらの文化財を通して、富山の魅力ある歴史や文化を発信することも必要な取り組みの一つであると考えております。



(県指定) 八尾町祭礼曳山

そうしたことから、市教育委員会では従来の文化財保護事業に加え、現在、「富山市文化財保存活用地域計画」を策定しているところであり、本計画において市内文化財の総合的・一体的な保存と活用に向けての方針を示すとともに、地域特有の歴史ストーリーを掘り起こし紹介するなど、本市の歴史や文化を発信してまいりたいと考えております。

今後とも、受け継がれてきた歴史と文化、文化財を未来へつなげていくために、市民一人ひとりが本市の歴史文化を再認識し、一層の愛情をもって継承していただけるよう取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

自治公民館整備の補助事業・貸付事業

富山市では、町内会等で整備する公民館（自治公民館）の建設や修繕にかかる費用に対して補助や貸付を行っています。

- ① 富山市公民館及び公民館類似施設建設補助金
補助額 補助対象事業費の1/5
新築 上限2,200千円～3,500千円(世帯数による)
修繕等 上限500千円

※補助対象事業費が500千円未満であるものについては制度を利用できません。また、別の補助金と重複して交付を受けることはできません。
※原則、前回補助を受けてから5年を経過しないものについては制度を利用できません。

- ② 公民館類似施設整備資金貸付事業
貸付金額 補助対象事業費の1/2
1施設につき1,000千円～10,000千円
利 率 変動するため、お問い合わせください。
(令和5年3月時点 0.5%)

貸付期間 10年以内

※貸付については、地縁による団体の認可などの要件があります。

原則、どちらの事業も工事着手の前年度に意向調査を行い、工事予定有と回答いただいた公民館のみ対象となります。

また、補助金の申請をした年度中に工事が完了することが条件となっています。

詳細については、必ず事前に生涯学習課 (TEL076-443-2137) 又はお近くの市立公民館にお問い合わせください。

公民館研修会の講演や事例発表は、「とやま公民館学遊ネット」の富山市公民館連絡協議会のページから、動画で視聴していただけます。

右のQRコードを読み込むか、WEBブラウザから「富山市公民館連絡協議会」で検索してご覧ください。



編集委員

清水 孝夫 (市公連推薦)
秋村 好美 (市立蜷川公民館)
上村 弘樹 (市立小見公民館)

山本 桂三 (市公連推薦)
宮崎 香 (市立新保公民館)
島田美也子 (市立八尾公民館)

三浦みゆき (市立西田地方公民館)
茅野ゆかり (市立池多公民館)